

長崎の林業

小曾根星堂書



つぎ 壱岐市立筒城小学校 マツ林保全活動集合写真（壱岐市）

10

目次

● 林政だより	木材SCM（サプライチェーンマネジメント）の推進について…2～3
● 特集記事	山を伴いに、人生を歩む 県民の森インタープリター会の レジェンド 尾崎 千津子さん ……………4～5
● 林業普及だより	新たな森林管理システムへの取組み（県央）……………6
● 地方だより・壱岐	壱岐市立筒城小学校によるマツ林保全活動……………7
● 地方だより・島原	紅葉といったら雲仙！……………8
● 林業団体情報	令和2年度 緑化推進運動ポスター優秀作品決定！……………9
● センターだより	含水率が100%を超える木材！！……………10
● 紹介コーナー	「ドングリの秘密展」「出張 長崎県民の森in長崎県庁」……11
● 長崎の山：稲佐山332.9m（長崎市）……………12	



ながさき
森林環境税

2020
No.781

木づかい推進で地球温暖化を防止しよう！

ご自由にお持ち下さい。

FREE

「長崎の林業」は、ながさき森林環境税により発行しています。
「長崎県庁」のホームページ「広報」→「県の発行物」からもご覧いただけます。

木材SCM (サプライチェーンマネジメント) の 推進について



現地調査 (県外の合板工場)

木材SCMの概要

山から原木が切り出され、工場で製品に加工され、住宅などに使われるまで、木材は多くのプロセスを経過します。

木材の SCM とは、このような原木や木材製品の流れを需要や供給などの情報の流れと結び付け、サプライチェーン全体で情報を共有・連携し、木材の流通全体の最適化を図ることです。

木材の SCM を適切に行うことにより、需要予測の精度向上、リードタイム(商品の発注から納品に至るまでの生産や輸送などにかかる時間)の削減・在庫の最適化などの効果が期待でき、必要なモノを、必要な時に、必要なだけ供給する「ジャストインタイム」の流通体制を構築することができます。



先進地視察(群馬県)

長崎県 SCM 推進フォーラムについて

令和元年度に、長崎県地域材供給倍増協議会として、林野庁事業「効率的なサプライチェーンの構築支援事業」に応募し、全国7地域(茨城、富山、岐阜、京都、高知、長崎、大分)のうちの一つに採択されました。

昨年度は情報交換会、先進地視察、実証試験などを行い、長崎県における木材サプライチェーン構想案を作成しました。

(川上) 素材生産業者が連携して、森林整備・出材計画を共有化し、生産した木材を中間土場等へ集約し、規格・品質・納期・量等を一元管理することで有利販売につなげ、ICT を活用して効率的な木材流通を行っていきます。

(川中) 需要に応じ、プレカット工場と連携した供給体制が構築されるとともに、小規模製材工場が連携して少量多品種の木材製品の供給を行い、さらに、県外の CLT 工場や集成材工場向けへのラミナの供給や製材品の輸出について事業者等で協力して取り組みます。

(川下) 県産材需要の高まりに対応し、プレカット工場による県産材の使用率を上げ、特に、

素材生産のうち7割を占めるヒノキについては、土台のみならず内装材への利用や公共工事への活用を進めていきます。



第1回情報交換会の様子

木材 SCM 支援システム「もりんく」概要

「もりんく」は林野庁補助事業により作成された木材 SCM 支援システムで、川上から川中・川下まで、木材の生産・流通・加工に携わる事業者に関する情報プラットフォームです。事業者を探したり、自社製品の情報を発信したり、連携可能な事業者を探すことができます。

また、原木供給者のグループや川上から川下までの新たなサプライチェーンを運営するグループなど、様々なビジネスモデルに合わせたグループの形成ができるほか、グループ内での取引情報や需給情報などを円滑に共有することもできます。

登録方法、使用方法については今後情報交換会等と合わせて説明を行う予定です。

もりんく HP: <https://molink.jp/molink/>

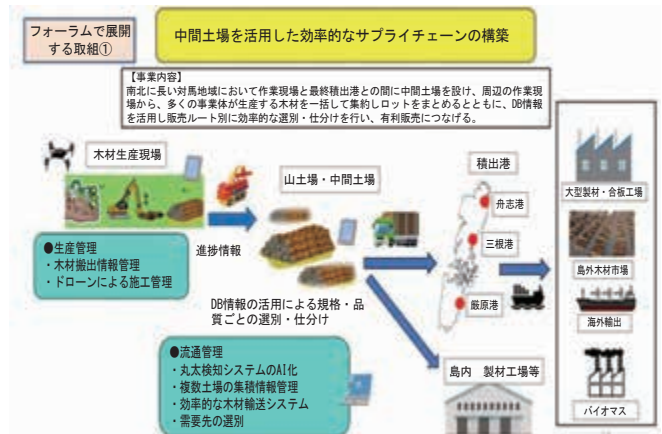


木材搬出現場確認(対馬市)

今年度の取組・実証試験について

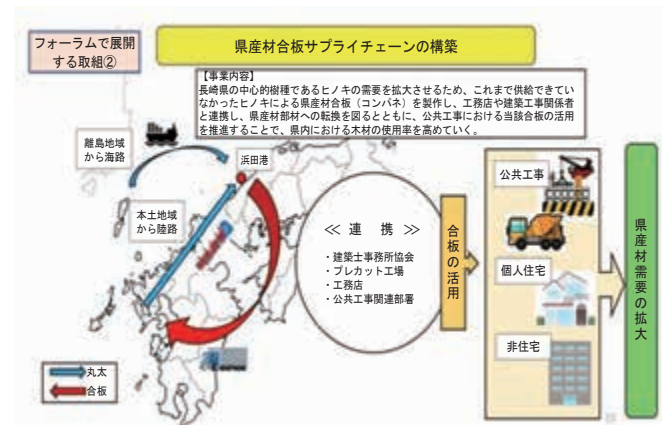
○中間土場を活用した効率的なサプライチェーンの構築

南北に長い対馬地域において作業現場と最終積出港との間に中間土場を設け、周辺の作業現場から、多くの事業者が生産する木材を一括して集約しロットをまとめるとともに、販売ルート別に ICT を活用した効率的な選別・仕分けを行い、有利販売につなげていきます。



○県産材合板サプライチェーンの構築

県産ヒノキによる型枠用合板を製作し、公共工事における活用を推進することで、県内における木材の使用率を高めていきます。また、一定規模での生産が必要なことから、川上側の連携によりヒノキ材の供給体制も構築します。



この他、日本木材総合情報センター HP (<https://www.jawic.or.jp/>) に全国7箇所の SCM フォーラムによる構想・計画書が掲載されていますので、是非ご一読ください。

(林政課森林活用班)



【特集記事】

山を伴いに、人生を歩む

県民の森インタープリター 会のレジェンド

尾崎 千津子さん

元祖山ガールにして、ながさき県民の森インタープリター会歴代唯一の女性会長となった尾崎千津子さんをご紹介します。

登山歴の始まり

ながさき県民の森インタープリター会初の女性会長として数々の足跡を残した尾崎千津子さんですが、彼女が日本中の山に残した足跡もまた登山愛好者の間ではよく知られています。

5歳で終戦を迎えた尾崎さんは、原爆で住めなくなった家を離れ、現在稲佐山公園となっている場所で、小学生までを過ごしました。当時は深い森の中であったため、毎日の通学が、稲佐山登山だったわけです。

尾崎さんが本格的な登山を始めるのは、30代後半になってからですが、ベースにその日々があったわけです。全く初めての登山を案内した、島原の登山愛好会のリーダーだった方がのちに、「初めての登山とは思えない足の運びだった」と語っておられたそうですが、当然といえば当然の話かもしれません。そんな尾崎さんが、新聞などで募集されるツアートレッキングにすぐに飽き足らなくなるのもまた当然。まもなく、個人で日本中の山を登るようになります。富士山はもちろん、北は利尻岳（北海道）から日本アルプスの名峰など、数え上げたらきりがありません。

インタープリター会登録

本格登山の傍ら、『長崎カルチャー山の会』という愛好会に参加します。この会は長崎新聞カルチャーセンターの『登山講座』修了生が中心となって設立された会で、その講座の講師を務めていたのが、長く長崎県民の森インタープリター会の会長をなさっていた林正康氏です。また、それとは別に公民館講座「林先生と木曜日に歩く会」（通称「木林会」）にも参加されます。林氏とのそのような縁から、2002年インタープリター会第3期生として会員登録、ウォーキング・オリエンテーリング部会員として、子供から高齢者まで、広く県民に自然散策の楽しさを伝える活動へと活躍の場を広げていきました。



北海道 利尻山の5合目付近

癒しのインタープリテーション

もともと、自然と人との間の「通訳」を意味するインタープリター、経済発展と反比例する自然体験の機会減少に伴って社会の中に高まったニーズに応える形で、各地の自然体験施設に設けられたソフトサービスです。今日では多様なプログラムや資格制度、マニュアルが整備されており、県民の森インタープリター登録にあたっては、数日にわたる講習を受講しなければなりません。インタープリテーションは、自然に対する知識とコミュニケーション技術が必要なのです。

もともと日本中の山を歩いて、樹木や山野草についての知識を豊富に蓄えていた尾崎さんですが、そのインタープリテーションスタイルは、決してそれに頼るものではありません。「今、自分が自然に包まれていることの喜び。」そういったものを小さな体いっぱいに表示する、非言語的なものと言ったらよいでしょうか。ですから、子供から高齢者まで、対象者の心にストレートに伝わります。

それは、尾崎さんの人生の歩みと深くかかわるよう感じられて仕方ありません。彼女は、31歳の時、当時8歳だった娘さんを残して夫に先立たれ、以来女手一つで残された娘さんを育てます。苦労して育て上げたその娘さんも、結婚されてこれからというときに33歳の若さで先立たれてしまわれました。まるで、小さな体が隠れてしまうような大荷物を背負って、アルプスを縦走するような人生です。しかしそれを語る尾崎さんは、湿っぽいところはおくびにも出しません。尾崎さんのスタイルのベースには、人生の伴侶として存在した山への深い感謝があるのでしょうか。

歴代唯一の女性会長

そのような尾崎さんのスタイルは、県民の森が2007年から着手した「森の癒し事業」(のち「森の保健室」と改称)において、大きな力を発揮します。当時ストレス

社会のもたらす問題がクローズアップされており、それを背景に提唱された「森林セラピー」が脚光を浴びていました。その新たなニーズに答えようと取り組まれたのがこの事業。インタープリター会としても未知の領域へ踏み出すこととなります。

ちょうどそのころ、長年会長を務めてこられた林氏を引き継ぐ形で、尾崎さんは会長に就任します。これまで女性会長は尾崎さんただ一人。会長としても、インタープリターとしてもこの事業に無くてはならない存在となります。

2008年、事業の一環として派遣された長野県信濃町での「アファンの森・5センスプログラム」研修でのことです。対象者は、盲学校の子供たちで、視覚障害に加え様々なハンディキャップを複合して持っていて、言葉によるコミュニケーションそのものが困難な子もいます。研修はその子らと2日間にわたって森の中で過ごすというものでした。視覚に障害のある子は、そのほかの感覚がとても研ぎ澄まされています。尾崎さんの醸し出す雰囲気はきつとその琴線に触れるのでしょうか。障害の有無、孫ほどの年の差といったものが、少しもバリアとなっていないのが、同行した記者にもはっきりと感じられました。

会長を退任された現在も、インタープリターとして活躍中。尾崎さんのこのような資質は、図鑑的知識やマニュアルに頼りがちな若いインタープリターにも大いに参考になることでしょう。まだまだ引退はできません。



(NPO 法人地域循環研究所)

新たな森林管理システムへの取り組み（県央）

森林経営管理制度

県内の森林は、スギ、ヒノキが育ち、木材として利用可能な時期を迎え、県では森林組合などの事業者による施業の集約化を推進し、間伐や主伐・再造林といった森林整備を進めています。平成31年4月からは「森林経営管理法」が施行され、森林所有者には、山が手入れ不足とならないよう適切な森林の経営管理を行う「責務」があることが明確化されました。その一方、森林所有者が自ら経営管理ができない場合は、市町に経営管理を委託することができるようになりました。市町に委託した森林のうち、林業経営に適した森林は意欲と能力のある林業経営体による整備が進められ、それ以外の森林は市町が直接管理をします。

市町の取り組み

市町は、経営管理が行われていない森林について、森林所有者に対する「意向調査」を行い、それを踏まえて市町による経営管理権の設定などについて検討することとなっており、令和元年度以降、県内の各市町で取り組みが始まっています。新しい制度であるため、各市町は手探り状態からのスタートですが、その中でも積極的に取り組まれている市町を紹介します。



西海市の地区説明会

西海市では、令和元年度から地域林政アドバイザーを雇用し、旧大瀬戸町内で意向調査

や説明会を通じて森林所有者の同意を得た4.38haの森林について、令和2年3月に経営管理権集積計画を公告しました。今秋以降、保育間伐を実施し、森林の公益的機能を十分に発揮する健全な森林としての管理を目指します。また、今年度も新たな地区で意向調査を実施しており、今後、市内各地区において順次、意向調査を進める予定です。



東彼杵郡3町そろっての打合せ

また、東彼杵郡3町では、意向調査の結果集約、分析及び経営管理集積計画素案作成等の業務について、地域林政アドバイザーを擁する東彼杵郡森林組合へそれぞれ外部委託しています。定期的に3町、森林組合及び振興局で進捗状況や課題等を共有する場を設け、各町は今年度中の経営管理集積計画公告を目指しています。

見えてきた課題と今後

経営管理集積計画の作成には、森林所有者の確定が不可欠です。

各市町は、登記簿や森林簿情報に加え、課税情報を活用する等取り組んでいますが、確定までにかかなりの労力を必要とするほか、共有林では一部共有者の相続が未登記であるため、早急な対応が難しいケースも生じています。今後も、全国的な事例の紹介等、効率的な制度活用に向けた支援を行います。

（県央振興局 林業課）

地方だより

つき
壱岐市立筒城小学校によるマツ林保全活動



マツ林保全活動（松葉かき）の様子

はじめに

令和2年7月22日に、壱岐市立筒城小学校の児童たちが、石田町筒城浜のマツ林保全活動を行いました。筒城浜のマツ林は、地域のシンボルであり、重要な田畑や人家を守るために保安林に指定され、治山事業等により森林造成（植栽活動等）を行ってきました。筒城小学校では、マツ林の維持と健全化を図るとともに、子供たちが郷土を愛し、大切にすることを育て、保全活動及び地域全体の環境美化を将来的に継続していく心情を培っていくことを目的として、以前より補植活動等に取り組んできましたが、平成28年より松葉かき等まで活動内容を広げて独自の取組を実施しています。

マツ林保全活動

活動には毎年、全学年の児童たちが参加しており、今年は児童・教職員・保護者及び地域住民合わせて94人が参加しました。また、筒城小学校支援会議「白砂の会」を中心に、保護者及び地域住民の参加者は年々増加しており、取組を継続・拡大しています。

補植当時は児童たちの腰の位置にあったマツが、今では背丈を超える大きさになっているものもあり、自分たちが手入れしたマツの

成長を感じつつ、集めた草の量を競い合ったり、一生懸命に汗をかきながら松葉かきを行いました。

おわりに

活動後の児童からの挨拶では、「これからも自然を守っていきたい」との心強い言葉もあり、この活動を通して自然や地域を守り育てる心が培われていることを実感しました。

今後も活動を広げ、筒城浜全体の総合的な活性化を目指したいとのことで、近い将来今回活動に参加した児童たちが中心となって地域を盛り上げてくれることを期待しています。



マツ林保全活動（松葉かき）の様子

（壱岐振興局 農林整備課）

地方だより

紅葉といたら雲仙！



島原半島の中央部に位置し、標高 1359m の普賢岳や国見岳からなる雲仙の紅葉は、長崎県のみならず、全国でも有名な紅葉の名所です。見頃は例年 10 月下旬～ 11 月上旬頃と言われており、この季節になると国内外から多くの観光客が訪れます。

この雲仙を彩る植物は、「普賢岳広葉樹林」と呼ばれ、国の天然記念物にも指定されています。主な紅葉植物は、ヤマボウシ、ニシキウツギ、コハウチワカエデ、ヒメミツバツツジ、イヌシデ、カナクギノキ、マメザクラなどの木本性植物のほか、ヤマブキシヨウマ、ムラサキテンニンソウ、ヤマホトトギス、シクシヤマアザミなどの草本性植物です。これらの約 120 種にもなる草木が、まるで海の中に生息するサンゴ礁のように深い紅色に染まり、雲仙の秋を美しく彩ります。このような美しい紅葉が見られる条件として、雲仙は昼夜の温度差が大きいこと、紫外線を十分受けることなどが挙げられます。

また、仁田峠から妙見岳山頂には雲仙ロープウェイが運行しています。距離約 500m の

ゴンドラから眺める 360 度の紅葉のパノラマは圧巻です。終点の展望所は、県下で最も標高の高い展望所であり、雲仙の紅葉を一望できます。

今年は新型コロナウイルスの影響により、県外への外出自粛が呼びかけられています。十分な感染対策のうえ、この機会に雲仙を訪ねてみてはいかがでしょうか。きっと秋の良き思い出となることでしょう。

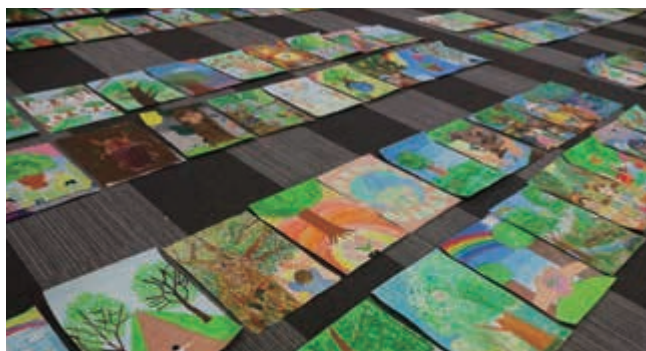


ゴンドラからの眺め
(写真提供：雲仙ロープウェイ株式会社)

(島原振興局 林務課)

林業団体情報

令和2年度 緑化推進運動ポスター—優秀作品決定!



緑化推進運動ポスターとは

緑化推進運動ポスターは、国土緑化推進運動の一環として、「植樹及び森林・樹木の保護・保育の助長並びに県民の緑化思想の高揚を図ること」を目的に、(公社)国土緑化推進機構が主催しているもので、昭和25年から毎年緑化に関するポスターの募集を行っています。

長崎県では、県内の小学校、中学校、高等学校、特別支援学校等へポスターを募集し、集まった作品の中から審査委員が優秀作品(入賞・入選・佳作)を審査会にて選定、また、優秀作品の中から(公社)国土緑化推進機構が主催する国土緑化運動・育樹運動ポスター—原画コンクールに推薦する作品を選びます。

長崎県庁にて審査会

令和2年9月17日(木)、長崎県庁にて緑化推進運動ポスターの審査会が行われました。小学校・中学校・高等学校等、全73校167点の応募があり、緑化推進や育樹、自然保護、地球環境問題等に対する応募者の思いがひしひしと伝わるような作品が表現豊かに描かれていました。木や森、人、虫、動物、地球等緑化に対するイメージは様々で木を赤ちゃんにたとえ、守り、育てていくような作品もあり、審査委員は、悩みながらも優秀作品を選定していました。

	応募数		入賞	入選	佳作
小学校	50校	106点	1点	3点	6点
中学校	21校	57点	1点	2点	3点
高等学校	2校	4点	1点	1点	1点

緑化推進運動ポスターの応募数及び優秀作品数



審査会の様子

展示会の予定

- 10月8日(木)～10月12日(月)
佐世保市玉屋
1階～5階 ステップギャラリー掲示板
- 10月14日(水)～10月19日(月)
長崎浜屋
5階～8階 ステップギャラリー
- 10月23日(金)～11月5日(木)
長崎県民の森 森林館2階ギャラリー

優秀作品は上記の日程・場所にて展示会を開催します。お近くにお越しの際はぜひご覧ください。

長崎県民の森では、森林館にて「ドンダリの秘密展」を10月18日(日)～11月3日(火)まで開催します。こちらは多種多様なドンダリや生態等ドンダリの秘密について知ることができます。長崎県民の森に来られた際は森林館に足を運び「ドンダリの秘密展」並びに「緑化推進運動ポスター」をご覧になってみてはいかがでしょうか。

(NPO 法人地域循環研究所)

センターだより

含水率が100%を超える木材！！

はじめに

木材には通常、水分が含まれています。水分の重量を木材の重量に占める割合で示したものが含水率です。これまでに、本誌の中でも、丸太や木質チップの含水率を測定した事例を紹介してきました。その中で、「何で木材の含水率が100%を超えるの？」という質問をたびたびいただきましたので、今回は木材の含水率について説明します。

含水率の求め方

含水率の求め方は2つあります。1つは、水分が全くない状態（全乾状態）の木質部分のみの重量を100とした場合の百分率で表したものです。これが、乾量基準（ドライベース）の含水率です。これに対し、水分を含んだ状態の木材の重量を100とし、そこに含まれる水分量を百分率で表したものが湿量基準（ウェットベース）の含水率です。例えば、木材の重さが30kg、そのうち木質部が10kg、水が20kgであるとき、含水率を湿量基準で計算した場合は66%となります（図1の上段左の計算式）。一方、乾量基準で計算すると含水率は200%になります（図1の上段右の計算式）。湿量基準で計算すると含水率は100%を超えることはありませんが、乾量基準で計算した場合は100%を超えることもあるのです。木材の含水率が100%を超えることがあるのは、木材では、

一般的に乾量基準含水率が使用されているためなのです。近年では、燃料などに利用する木質チップの含水率は湿量基準で表すことも多いようです。そのため、木質チップの含水率の話をする際は、2種類の含水率どちらのことであるか注意する必要があります。

木材の含水率

一般的に木材の含水率は伐採直後が最も高く、その後、乾燥に伴い減少していきます。含水率が30%程度（繊維飽和点）になると木材は収縮しはじめます。最終的には木材の置かれている環境に応じて含水率は一定に落ち着きます。その含水率は平衡含水率と呼ばれ、全国平均で約15%と言われています。含水率は樹種によって異なり、同じ樹種でも含水率が大きく異なるものもあります。スギでは、含水率が200%をこえることもあります。さらに、辺材や心材等の部位によっても含水率は異なります。

最後に

森林資源は充実しており、木材は建築用、バイオマス用等としての利用がますます増加していくことが考えられます。今後は木材を供給する側も利用する側も木材の含水率を意識しておくことが必要となってきています。

（農林技術開発センター）

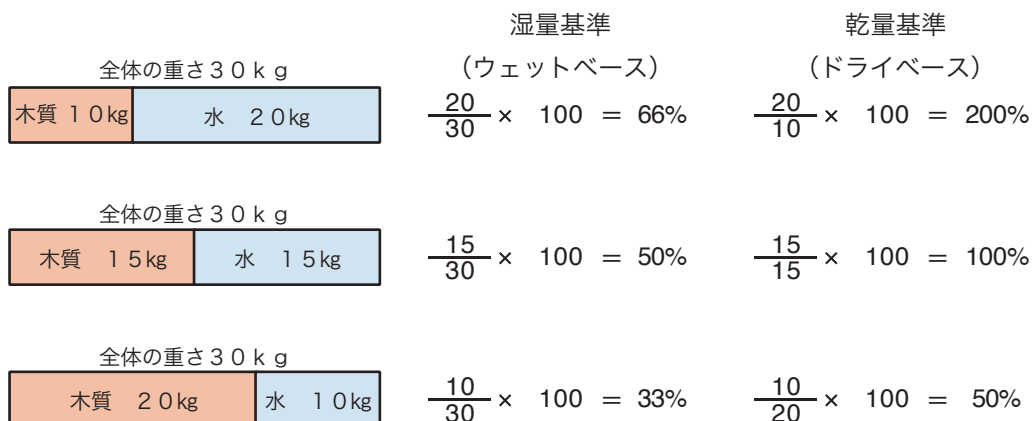


図1 湿量基準と乾量基準による木材の含水率の求め方

「ドングリの秘密展」「出張 長崎県民の森in長崎県庁」

令和2年10月18日（日）～11月3日（火）9:00～16:30に、長崎県民の森 森林館にて大人気イベント「ドングリの秘密展」が開催されます。

館内には多種多様なドングリが集められ、ドングリの生態のパネルの展示やドングリを使ったおもちゃ等の作成のほか、インタープリーターによるドングリの不思議の解説・説明が行われます。

昨年は、延べ 656 名の方にご参加いただいたこの大人気イベントですが、今年は、長崎県庁1階エントランスホールでも追加開催することが決定しました！県庁で開催するのは初めての試みです。

こちらの「出張 長崎県民の森 in 長崎県庁」は11月8日（日）～11月11日（水）にかけて開催予定です。

ドングリの秘密展、長崎県民の森フォトコンテスト 2020 の入賞作品展示のほか、8日（日）にはフォトコンテスト入賞者の表彰式も開催予定です。

長崎県民の森に興味はあるけど遠くて中々足を運べないという方も、ぜひこの機会にご来場ください。

イベントの案内については、詳細が決まり次第、県民の森 HP に掲載します。

※新型コロナウイルスの状況によっては、内容の変更又は中止も考えられます。ご了承下さい。



昨年度の「ドングリの秘密展」展示品

長崎県民の森 管理事務所
電話：0959-24-0181

伊万里木材市況

【ヒノキ】

令和2年9月現在

長さ	径級 cm	等級	高値 (円/㎡)	現在出荷量	現在引合	需要見通
4m	16～18	直	18,900	少ない	多い	普通
	16～18	小曲り	17,900	少ない	多い	普通
	20～22	直	18,700	少ない	多い	普通
	20～22	小曲り	17,700	少ない	多い	普通

【スギ】

令和2年9月現在

長さ	径級 cm	等級	高値 (円/㎡)	現在出荷量	現在引合	需要見通
4m	18～22	直	13,300	少ない	多い	多い
	16～22	小曲り	12,000	少ない	多い	多い
	24～28	直	14,000	少ない	多い	多い
	24～28	小曲り	12,000	少ない	多い	多い

※情報・お問い合わせは、伊万里木材市場 電話 0955-20-2183 まで

長崎の山：稲佐山332.9m（長崎市）



テレビ塔が建った後移り住んだ場所
を示す尾崎さん

通常、稲佐山という呼び名で長崎市民のみならず長崎を訪れるすべての人に親しまれているこの山を、年の離れた友人と歩きました。尾崎千津子さん御年 80 歳。日本アルプスの主だった名峰はほとんど制覇した山のベテランですが、頼ったのはそのキャリアではありません。彼女は稲佐山のふもと、淵神社近くで生まれ、5歳の時原爆で家が破壊されると、頂上近く、現在の稲佐山公園付近に転居し、テレビ塔建設により立ち退いた後は、中腹で結婚して家を出るまでを暮らしていました。この山の変遷の生き証人と言える人です。そんな人と稲佐山が里山であったころをめぐる山歩きがしたかったのです。彼女にとっては記憶を辿りながら、著者にとっては想像を巡らせながらの散策でした。

被爆直後に頂上付近に移り住むようになった経緯について、当時 5 歳だった彼女が詳しく知る由もないのですが、5、6 世帯が寄り添うように暮らしていたそうです。毎日、稲佐小学校まで通っていた山道を現在利用しているのは猪くらしらしく、猪除けの柵もあって通れませんでした。

燃料は森から、水は沢からの日々。家族総出で薪集めをやった鉢巻山の斜面は、公

園内は様変わりしていますが、その外は今でも深い雑木林のまま、小さな子供が集めてたそだ粗朶、ここらでいう「びゃーら」がたくさん落ちています。尾崎さんによると、「その頃は、みんなが採っていたから探さないと見つからなかった」そうです。水を汲んだ沢は、新しくできたスロープカーの発着場のすぐ下であり、現在のコンクリートの水路にはしみ出るような水を流しています。水量の差はそのまま森の保水力を示しているといえるでしょう。



(左) 薪を集めた雑木林
(右) かつて水を汲んだ沢

長崎が未曾有の困難に見舞われた数年間、ほんの数世帯とはいえ、この山は水と燃料という命に直結する資源を与え続けました。年間何万人もの人を集める重要な観光資源であるこの山ですが、次にここを訪れるときには、ぜひ観光施設の周囲に広がる森にも足をのばしてみたいかがでしょう。きっとこの山の持つもう一つの力に気づかせてくれるでしょう。そして、あなたの町のすぐ近くの山に、同じ力が秘められていることにも気づくはず

(NPO法人地域循環研究所)

長崎の林業 10月号 第781号
編集・発行 長崎県林政課
住所：長崎県長崎市尾上町3番1号
電話：095-895-2988
ファクシミリ：095-895-2596
メールアドレス：
s07090@pref.nagasaki.lg.jp